

令和4年度

# 公営企業会計決算の概要

令和5年9月29日

島根県企業局

# 目 次

1. 企業局所管事業	1
2. 会計別決算の概要	2
電気事業会計	2
工業用水道事業会計	4
水道事業会計	6
宅地造成事業会計	9
3. 利益剰余金の処分及び欠損金の処理	11
4. 資金不足比率	12
5. 一般会計決算（企業局関係分）の概要	13

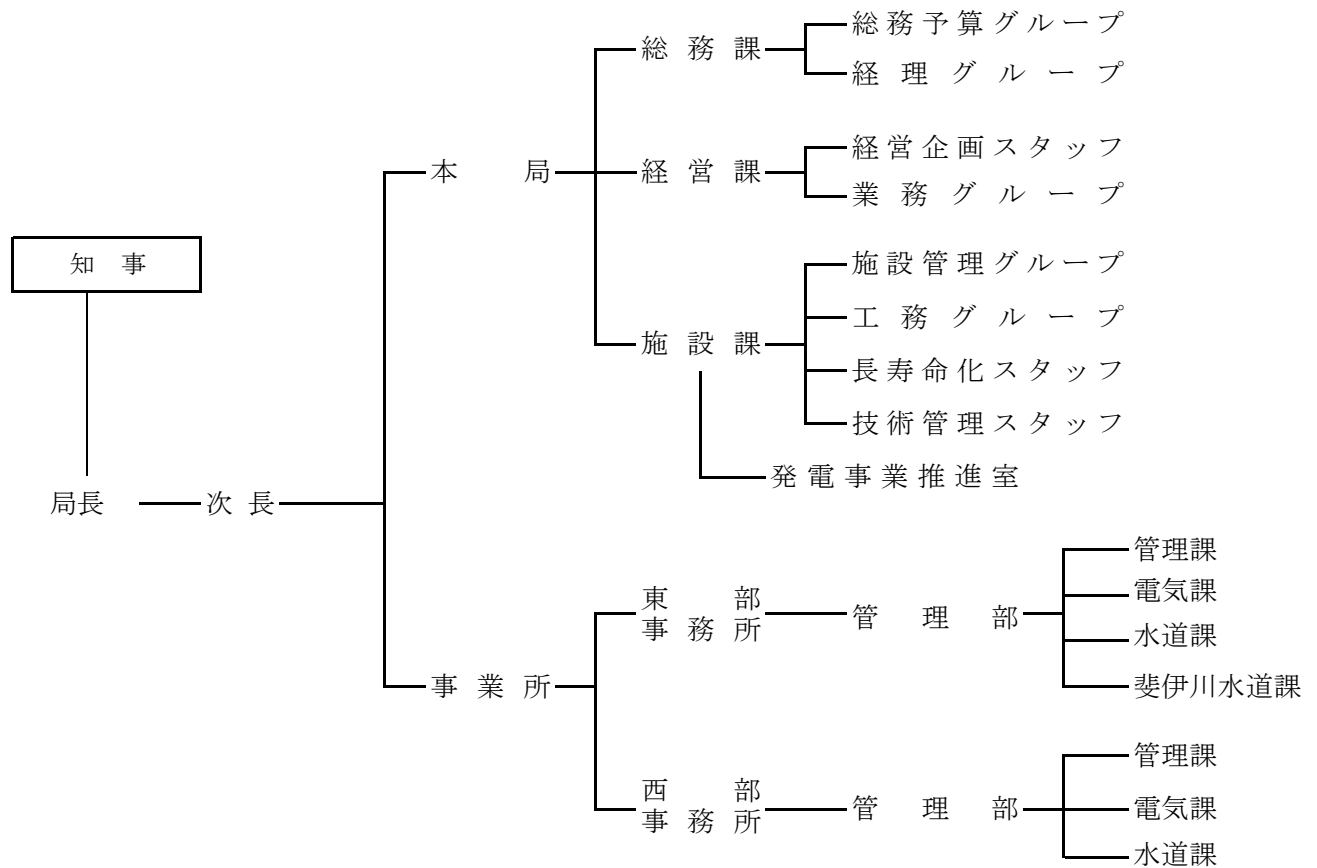
# 1. 企業局所管事業

## (1) 事業

事業名		概要
電気事業	水力発電	三成発電所など15発電所16発電機 最大出力合計 28,497kW
	風力発電	江津高野山風力発電所 最大出力20,700kW=2,300kW×9基 最大出力合計 20,700kW
	太陽光発電	江津浄水場太陽光発電所など4発電所 最大出力合計 6,920kW
工業用水道事業	飯梨川工業用水道事業	給水先：松江市、安来市の事業所
	江の川工業用水道事業	給水先：江津地域拠点工業団地の事業所
水道事業	飯梨川水道事業	給水先：松江市、安来市
	斐伊川水道事業	給水先：松江市、出雲市、雲南市、斐川水道水道企業団
	江の川水道事業	給水先：大田市、江津市
宅地造成事業	江島工業団地	造成済面積：21.7ha
	江津地域拠点工業団地	造成済面積：33.1ha

## (2) 組織

(令和5年3月31日現在)



## (3) 職員の配置状況

(単位：人)

区分	令和4年度 (R5. 3. 31)			令和3年度 (R4. 3. 31)			増減			
	定数内	定数外	計	定数内	定数外	計	定数内	定数外	計	
本局	局長・次長	2	—	2	2	—	2	0	—	0
	総務課	12	2	14	12	1	13	0	1	1
	経営課	8	1	9	8	0	8	0	1	1
	施設課	11	1	12	10	1	11	1	0	1
	計	33	4	37	32	2	34	1	2	3
事業所	東部事務所	32	15	47	33	15	48	△ 1	0	△ 1
	西部事務所	20	7	27	19	8	27	1	△ 1	0
	計	52	22	74	52	23	75	0	△ 1	△ 1
合計	85	26	111	84	25	109	1	1	2	

## 2. 会計別決算の概要

### 電 気 事 業 会 計

#### (1) 事業概要

ア 水力発電（三成発電所など15発電所）

- 令和4年度の供給電力量は86,172,437kWhで、目標電力量の85.9%

イ 風力発電（江津高野山発電所）

- 令和4年度の供給電力量は24,772,560kWhで、目標電力量の80.5%

ウ 太陽光発電（江津浄水場、三隅港臨海工業団地、江津地域拠点工業団地、石見空港の4発電所）

- 令和4年度の供給電力量は8,880,290kWhで、目標電力量の107.5%
- 再生可能エネルギーの固定価格買取制度は、水力発電所13カ所、風力発電所1カ所、太陽光発電所4カ所に適用

(単位：kWh)

事業名	R 4			R 3			前年比 (a)/(b)
	目標電力量	供給電力量(a)	達成率	目標電力量	供給電力量(b)	達成率	
水力発電	100,309,000	86,172,437	85.9%	100,034,000	88,678,341	88.6%	97.2%
風力発電	30,774,000	24,772,560	80.5%	30,774,000	30,458,880	99.0%	81.3%
太陽光発電	8,263,000	8,880,290	107.5%	8,263,000	9,032,176	109.3%	98.3%

#### (2) 収益的収支

- 営業収益は、前年度比159百万円の減  
 水力発電は、故障や降水量の減少により50百万円の減  
 風力発電は、故障や風況の影響による運転時間の減少により111百万円の減  
 太陽光発電は、故障により4百万円の減
- 営業費用は、修繕費や委託料の増などにより前年度比262百万円の増
- 当期純損益は、前年度より179百万円減の480百万円の黒字
- 発電種類別では、水力発電は474百万円の黒字、風力発電は33百万円の赤字、太陽光発電は39百万円の黒字

(単位：百万円)

	R 4年度	R 3年度	比較増減	備 考 (前年度対比)
1 営業収益 (A)	2,899	3,058	△ 159	
2 うち水力発電電力料	2,110	2,160	△ 50	八戸川第一1号機：降水量減少による減 八戸川第一2号機：雷害での故障による減
3 うち風力発電電力料	487	598	△ 111	高野山：故障による運転時間減少による減
4 うち太陽光発電電力料	289	293	△ 4	石見空港：故障による停止による減
5 財務収益・事業外収益(B)	181	134	47	退職手当他会計負担金+47
6 特別利益 (C)	277	0	277	高野山災害共済金+121 八戸川第一2号機災害共済金+120
7 総収益 (A+B+C=D)	3,357	3,192	165	
8 営業費用 (E)	2,753	2,491	262	修繕費+199、委託料+53
9 財務費用・事業外費用(F)	91	42	49	退職手当+47
10 特別損失 (G)	33	0	33	小水力発電建設事業（高尾地点）の中止による費用化処理
11 総費用 (E+F+G=H)	2,876	2,533	343	
12 当期純損益 (D-H)	480	659	△ 179	

※百万円単位に四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。以下同様。

	《発電種類別当期純損益》	R 4 年度	R 3 年度	比較増減	増 減 要 因
13	水力発電	474	623	△ 149	電力料収入△50、特別利益+156、修繕費+171
14	風力発電	△ 33	△ 16	△ 17	電力料収入△112、特別利益+121、修繕費+22
15	太陽光発電	39	51	△ 12	電力料収入△4、修繕費+4

### (3) 資本的収支

- ・収入は、企業債の借入などにより、1,508百万円
- ・支出は、三隅川発電所発電設備更新工事など建設改良に2,163百万円、企業債償還金に1,097百万円などで、合計3,350百万円
- ・収支不足額1,842百万円は損益勘定留保資金などにより補てん

(単位：百万円)

		R 4 年度	R 3 年度	比較増減	備 考 (前年度対比)
16	資本的収入 X	1,508	1,689	△ 181	企業債△205、国庫補助金+30
17	資本的支出 Y	3,350	3,211	139	建設改良費+43、企業債償還金+81
18	資本的収支差 X-Y	△ 1,842	△ 1,522	△ 320	

### (4) 貸借対照表

- ・資産は、三隅川発電所発電設備更新工事による仮勘定の増などにより846百万円の増
- ・負債は、未払金の減などにより118百万円の減
- ・資本は、当期純利益の計上などにより390百万円の増
- ・内部留保資金は、167百万円減の2,761百万円

(単位：百万円)

		期末	期首	比較増減	備 考 (前年度対比)
19	固 定 資 産	22,993	22,147	846	
20	うち水力発電設備	12,592	12,589	3	
21	うち建設仮勘定	5,844	4,512	1,332	三隅川発電所再開発事業費+1,560 飯梨川第三発電所再開発事業費△240
22	流 動 資 産	3,067	3,641	△ 574	
23	うち現金預金	2,405	3,123	△ 718	
24	資 産 合 計	26,060	25,788	272	
25	固 定 負 債	16,263	15,930	333	企業債+328
26	流 動 負 債	1,488	1,845	△ 357	企業債+48、未払金△425
27	繰 延 収 益	998	1,092	△ 94	
28	負 債 合 計	18,749	18,867	△ 118	
29	資 本 金	6,313	6,313	0	
30	剰 余 金	998	608	390	当期純利益480、一般会計繰出△91
31	資 本 合 計	7,311	6,921	390	
	《内部留保資金》	R 4 年度	R 3 年度	比較増減	備 考 (前年度対比)
32	年度末現在高	2,761	2,928	△ 167	

# 工業用水道事業会計

## (1) 事業概要

### ア 飯梨川工業用水道事業

- ・水源：布部ダム
- ・給水先：松江市、安来市の28事業所

(単位：m<sup>3</sup>、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
R 4 (a)	12,410,000	6,813,109	54.9%	119,602
	日量 34,000	日量 18,666		
R 3 (b)	12,410,000	6,832,358	55.1%	119,712
	日量 34,000	日量 18,719		
<b>(a)/(b)</b>	—	<b>99.7%</b>	—	<b>99.9%</b>

### イ 江の川工業用水道事業

- ・水源：八戸ダム
- ・給水先：江津地域拠点工業団地の4事業所

(単位：m<sup>3</sup>、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
R 4 (a)	5,475,000	3,260,180	59.5%	55,896
	日量 15,000	日量 8,932		
R 3 (b)	5,475,000	3,194,084	58.3%	54,574
	日量 15,000	日量 8,751		
<b>(a)/(b)</b>	—	<b>102.1%</b>	—	<b>102.4%</b>

## (2) 収益的収支

- ・営業収益は、前年度並み
- ・営業費用は、動力費の増加などにより前年度比13百万円の増
- ・当期純損益は、前年度より14百万円減の5百万円の黒字
- ・施設別では、飯梨川工業用水道は18百万円の黒字、江の川工業用水道は13百万円の赤字

(単位：百万円)

	R 4 年度	R 3 年度	比較増減	備 考 (前年度対比)
1 営業収益 (A)	176	176	0	
2 うち給水収益	175	174	1	第一稀元素化学工業(株)の契約水量増
3 営業外収益 (B)	27	29	△ 2	退職給付引当金戻入益△2
4 特別利益 (C)	0	2	△ 2	固定資産売却に伴う償却未済分
5 総収益 (A+B+C=D)	203	207	△ 4	
6 営業費用 (E)	191	178	13	減価償却費+2、動力費+10
7 営業外費用 (F)	6	6	0	
8 特別損失 (G)	0	4	△ 4	固定資産売却△4
9 総費用 (E+F+G=H)	197	188	9	
10 <b>当期純損益 (D-H)</b>	<b>5</b>	<b>19</b>	<b>△ 14</b>	
11 累積欠損金	1,274	1,279	△ 5	

	《施設別当期純損益》	R 4年度	R 3年度	比較増減	増減要因
12	飯梨川工業用水道事業	18	30	△ 12	動力費+4、退職給付引当金繰入+3
13	江の川工業用水道事業	△ 13	△ 11	△ 2	動力費+6、特別損失△4

### (3) 資本的収支

- ・収入は、企業債の借入や一般会計借入金などにより総額91百万円
- ・支出は、建設改良として飯梨川工水の水管橋継手取替工事などで80百万円、企業債償還金60百万円により総額144百万円
- ・収支不足額53百万円は損益勘定留保資金等により補てん

(単位：百万円)

		R 4年度	R 3年度	比較増減	備考(前年度対比)
14	資本的収入 X	91	99	△ 8	企業債△14、補助金+7
15	資本的支出 Y	144	144	0	
16	資本的収支差 X-Y	△ 53	△ 45	△ 8	

### (4) 貸借対照表

- ・資産は、飯梨川工業用水道設備の減などにより27百万円の減
- ・負債は、未払金の減などにより32百万円の減
- ・資本は、当期純利益の計上により5百万円の増
- ・内部留保資金は、前年度から33百万円の増の428百万円

(単位：百万円)

		期末	期首	比較増減	備考(前年度対比)
17	固定資産	2,453	2,471	△ 18	
18	うち建設仮勘定	197	131	66	布部系送水管路耐震対策事業費+42 布部ダム改良事業費+16
19	流動資産	440	449	△ 9	未収金+7
20	うち現金預金	410	427	△ 17	
21	資産合計	2,893	2,920	△ 27	
22	固定負債	3,159	3,135	24	一般会計借入金+23
23	流動負債	78	120	△ 42	未払金△43
24	繰延収益	481	495	△ 14	
25	負債合計	3,718	3,750	△ 32	
26	資本金	398	398	0	
27	剰余金	△ 1,223	△ 1,228	5	当期純利益5
28	資本合計	△ 825	△ 830	5	
	《内部留保資金》	R 4年度	R 3年度	比較増減	備考(前年度対比)
29	年度末現在高	428	395	33	

# 水 道 事 業 会 計

## (1) 事業概要

ア 島根県水道用水供給事業

### ① 飯梨川水道

- ・水源：布部ダム、山佐ダム
- ・給水先：松江市、安来市

(単位：m<sup>3</sup>、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
R 4 (a)	18,980,000	12,656,005	66.7%	414,243
	日量 52,000	日量 34,674		
R 3 (b)	18,980,000	12,264,454	64.6%	405,455
	日量 52,000	日量 33,601		
<b>(a)/(b)</b>	—	<b>103.2%</b>	—	<b>102.2%</b>

### ② 斐伊川水道

- ・水源：尾原ダム
- ・給水先：松江市、出雲市、雲南市、斐川宍道水道企業団

(単位：m<sup>3</sup>、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
R 4 (a)	12,921,000	8,544,227	66.1%	895,732
	日量 35,400	日量 23,409		
R 3 (b)	12,921,000	8,529,632	66.0%	894,203
	日量 35,400	日量 23,369		
<b>(a)/(b)</b>	—	<b>100.2%</b>	—	<b>100.2%</b>

イ 江の川水道用水供給事業

- ・水源：八戸ダム
- ・給水先：大田市、江津市

(単位：m<sup>3</sup>、千円)

年 度	年間給水能力A	年間使用量B	売水率B/A	料金収入
R 4 (a)	9,855,000	4,096,211	41.6%	302,577
	日量 27,000	日量 11,222		
R 3 (b)	9,855,000	4,116,827	41.8%	307,159
	日量 27,000	日量 11,279		
<b>(a)/(b)</b>	—	<b>99.5%</b>	—	<b>98.5%</b>



## (2) 収益的収支

- ・営業収益は、飯梨川水道と斐伊川水道の増収などにより前年度比6百万円の増
- ・営業費用は、動力費や修繕費の増などにより前年度比98百万円の増
- ・当期純損益は、前年度より79百万円減の60百万円の赤字
- ・施設別では、飯梨川水道は29百万円、斐伊川水道は15百万円、江の川水道は17百万円のそれぞれ赤字

(単位：百万円)

	R 4年度	R 3年度	比較増減	備 考 (前年度対比)
1 営業収益 (A)	1,614	1,608	6	
2 うち給水収益	1,613	1,607	6	飯梨川+9、斐伊川+2、江の川△5
3 営業外収益 (B)	312	343	△ 31	退職給付引当金戻入益△2、 知事部局からの退職手当負担金△24
4 特別利益 (C)	0	0	0	
5 総収益 (A+B+C=D)	1,926	1,951	△ 25	
6 営業費用 (E)	1,884	1,786	98	動力費+64、修繕費+40
7 営業外費用 (F)	102	137	△ 35	企業債利息△11、退職手当△23
8 特別損失 (G)	0	9	△ 9	固定資産売却損△9
9 総費用 (E+F+G=H)	1,986	1,932	54	
10 <b>当期純損益 (D-H)</b>	<b>△ 60</b>	<b>19</b>	<b>△ 79</b>	
11 累積欠損金	434	374	60	

	R 4年度	R 3年度	比較増減	増 減 要 因
12 《施設別当期純損益》				
飯梨川水道事業	△ 29	14	△ 43	動力費+17、修繕費+34
13 斐伊川水道事業	△ 15	2	△ 17	動力費+34、修繕費△3
14 江の川水道事業	△ 17	3	△ 20	動力費+13、修繕費+9、特別損失△9

## (3) 資本的収支

- ・収入は、企業債借入などにより92百万円
- ・支出は、今津浄水場送水ポンプ取替工事など建設改良に122百万円、企業債償還金に607百万円、長期借入金償還に810百万円で合計1,539百万円
- ・収支不足額1,447百万円は損益勘定留保資金などにより補てん

(単位：百万円)

	R 4年度	R 3年度	比較増減	備 考 (前年度対比)
15 資本的収入 X	92	176	△ 84	企業債△82
16 資本的支出 Y	1,539	962	577	建設改良費△183、長期借入金償還金+746
17 資本的収支差 X-Y	△ 1,447	△ 786	△ 661	

#### (4) 貸借対照表

- ・資産は、減価償却などにより1,763百万円の減
- ・負債は、他会計借入金や企業債の減などにより1,703百万円の減
- ・資本は、当期純損失の計上により60百万円の減
- ・内部留保資金は、前年度から708百万円の減の1,253百万円

(単位：百万円)

	期末	期首	比較増減	備考(前年度対比)
18 固定資産	32,294	33,267	△ 973	
19 うち建設仮勘定	326	327	△ 1	斐伊川長寿命化事業費△27 飯梨川場内設備更新事業費+8 布部ダム改良事業費+6 江の川送水管支障移転事業費+8
20 流動資産	1,400	2,190	△ 790	
21 うち現金預金	1,197	2,015	△ 818	
22 資産合計	33,694	35,457	△ 1,763	
23 固定負債	5,526	6,877	△ 1,351	企業債△607、他会計借入金△753
24 流動負債	847	904	△ 57	未払金△81
25 繰延収益	9,882	10,177	△ 295	
26 負債合計	16,255	17,958	△ 1,703	
27 資本金	17,488	17,488	0	
28 剰余金	△ 49	11	△ 60	当期純利益 △60
29 資本合計	17,439	17,499	△ 60	
	R 4年度	R 3年度	比較増減	備考(前年度対比)
30 《内部留保資金》 年度末現在高	<b>1,253</b>	<b>1,961</b>	<b>△ 708</b>	

# 宅 地 造 成 事 業 会 計

## (1) 事業概要

- ・江島工業団地及び江津地域拠点工業団地の造成・分譲を実施
- ・江島工業団地は平成30年度に完売
- ・令和4年度は、江津地域拠点工業団地において土地の売却実績はなかった

分譲状況（令和5年3月末現在）

（単位：㎡）

団 地 名	工業用地面積	造成済面積(A)	分譲済面積(B)	分譲率 (B/A)
江島工業団地	217,108	217,108	217,108	100.0%
江津地域拠点工業団地	460,647	331,197	218,669	66.0%

## (2) 収益的収支

- ・営業収益は、資産減耗費戻入の減少により、前年度比504百万円の減
- ・営業費用は、未成宅地の時価評価損の増加により、前年度比23百万円の増
- ・当期純損益は、前年度より525百万円減の187百万円の赤字

（単位：百万円）

	R 4年度	R 3年度	比較増減	備 考（前年度対比）
1 営業収益 (A)	120	624	△ 504	宅地売却収益△182 資産減耗費戻入△321
2 営業外収益 (B)	3	1	2	
3 総収益 (A+B=C)	123	625	△ 502	
4 営業費用 (D)	308	285	23	宅地売却原価△148 資産減耗費+186
5 営業外費用 (E)	2	2	0	
6 総費用 (D+E=F)	310	287	23	
7 <b>当期純損益(C-F)</b>	<b>△ 187</b>	<b>338</b>	<b>△ 525</b>	

## (3) 資本的収支

- ・収入は、企業債借入などにより188百万円
- ・支出は、江津地域拠点工業団地の道路工事費などにより188百万円
- ・収支不足額は損益勘定留保資金などにより補てん

（単位：百万円）

	R 4年度	R 3年度	比較増減	備 考（前年度対比）
8 資本的収入 X	188	266	△ 78	企業債△127、一般会計借入金+43
9 資本的支出 Y	188	270	△ 82	土地造成費△125、企業債償還金+43
10 資本的収支差 X-Y	0	△ 4	4	

#### (4) 貸借対照表

- ・資産は、江津地域拠点工業団地のたな卸資産時価評価損の増加により173百万円の減
- ・負債は、一般会計借入金が増などにより13百万円の増
- ・資本は、当期純損失の計上により187百万円の減
- ・内部留保資金は、前年度から13百万円の増の856百万円

(単位：百万円)

		期末	期首	比較増減	備考(前年度対比)
11	固定資産	70	84	△14	
12	うち投資その他の資産	70	84	△14	江島工業団地分譲による年賦未収金
13	宅地造成	2,113	2,260	△147	
14	うち完成宅地	1,699	1,722	△23	江津：たな卸資産の時価評価による減
15	うち未成宅地	414	538	△124	江津：たな卸資産の時価評価による減
16	流動資産	858	870	△12	
17	うち現金預金	858	870	△12	
18	資産合計	3,041	3,214	△173	
19	固定負債	2,686	2,651	35	一般会計借入+149
20	流動負債	155	177	△22	江津地域拠点工業団地造成に係る未払金△17
21	負債合計	2,841	2,828	13	
22	資本金	304	304	0	
23	剰余金	△104	83	△187	当年度純利益△187
24	資本合計	199	386	△187	
	<b>《内部留保資金》</b>	R4年度	R3年度	比較増減	備考(前年度対比)
25	<b>年度末現在高</b>	<b>856</b>	<b>843</b>	<b>13</b>	

### 3. 利益剰余金の処分及び欠損金の処理

#### (1) 電気事業会計

(単位：円)

区 分	電 気 事 業 会 計
1. 利益剰余金処分対象額	
(1) 前年度繰越利益剰余金 A	0
(2) 当年度純利益 B	480,338,497
計 (当年度未処分利益剰余金) C=A+B	480,338,497
2. 利益剰余金処分	
(1) 利益積立金繰入額 D	0
(2) 地域振興積立金繰入額 E	480,338,497
3. 翌年度繰越剰余金 (C-D-E)	0

・当年度純利益は、再生可能エネルギーの利用促進及び地域の振興等の資金としての操出をはじめ、一般会計への操出ができるよう、全額を地域振興積立金として積み立てる。

#### (2) 工業用水道事業会計、水道事業会計

(単位：円)

区 分	工業用水道事業会計	水 道 事 業 会 計
1. 欠損金処理対象額		
(1) 前年度繰越欠損金 F	1,279,135,896	373,723,208
(2) 当年度純利益 (△純損失) G	5,294,618	△ 60,727,628
計 (当年度未処理欠損金) H=F-G	1,273,841,278	434,450,836
2. 翌年度繰越欠損金 (H)	1,273,841,278	434,450,836

- ・工業用水道事業の当年度純利益については、繰越欠損金にあてる。
- ・水道事業の当年度純損失については、繰越欠損金に含める。

#### (3) 宅地造成事業会計

(単位：円)

区 分	宅 地 造 成 事 業 会 計
1. 欠損金処理対象額	
(1) 前年度繰越欠損金 I	0
(2) 当年度純利益 (△純損失) J	△ 186,897,787
計 (当年度未処理欠損金) K=I-J	186,897,787
2. 欠損金処理額	
(1) 利益積立金取崩 L	52,303,612
3. 翌年度繰越欠損金 (K-L)	134,594,175

- ・利益積立金全額を取り崩し欠損金にあて、残余の欠損金は次年度へ繰り越す。

## 4. 資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第22条第1項の規定に基づく公営企業（企業局）の資金不足比率については、下記のとおりであり、各会計において資金不足は発生していない。

◆電気事業会計	資金不足比率	－%	（資金不足なし）
◆工業用水道事業会計	資金不足比率	－%	（資金不足なし）
◆水道事業会計	資金不足比率	－%	（資金不足なし）
◆宅地造成事業会計	資金不足比率	－%	（資金不足なし）

なお、資金不足比率が経営健全化基準である20%を超過すると、経営健全化計画の策定が必要となる。

[参考]

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$$

- ・資金の不足額 = 流動負債 - 流動資産
- ・事業の規模（宅地造成事業以外） = 営業収益の額 - 受託工事収益の額
- ・事業の規模（宅地造成事業） = 負債 + 資本

## 5. 一般会計決算(企業局関係分)の概要

(単位:千円)

区 分	R4年度	R3年度	比較増減
電気事業			
一般会計補助金 (ア)	3,938	3,320	618
児童手当に要する経費	3,938	3,320	618
電気事業 計(A)	3,938	3,320	618
工業用水道事業			
一般会計補助金 (イ)	5,958	5,367	591
江の川工水企業債利息に要する経費	1,237	1,592	△ 355
江の川工水八戸ダム管理費負担金に要する経費	4,721	3,775	946
一般会計貸付金 (ウ)	27,893	26,371	1,522
江の川工水企業債元金償還等に要する経費等	27,893	26,371	1,522
工業用水道事業 計(B)	33,851	31,738	2,113
水道事業			
一般会計補助金 (エ)	796	1,260	△ 464
児童手当に要する経費	796	1,260	△ 464
水道事業 計(C)	796	1,260	△ 464
宅地造成事業			
一般会計貸付金 (オ)	151,192	108,060	43,132
企業債元利償還に要する経費	151,192	108,060	43,132
宅地造成事業 計(D)	151,192	108,060	43,132
総 計 (A) + (B) + (C) + (D)	189,777	144,378	45,399
[再掲]			
一般会計補助金 計 (ア)+(イ)+(エ)	10,692	9,947	745
一般会計貸付金 計 (ウ)+(オ)	179,085	134,431	44,654
総 計 (ア)~(カ)	189,777	144,378	45,399